

まぐらの そう し

枕草子

せい しょう な ごん
清 少 納 言

春はあけぼの

口語訳(現代語訳)

歴史的仮名遣い

現代仮名遣い

《いとをかし》

▼だんだんと
(よう) (よう)

春はあけぼの。

やうやう白くなりゆく、山ぎは

() が

春はあけぼの。(の頃) 《が趣がある》

(と白んでいく、山ぎわが

▼明るくなって

▼紫色がかった雲

すこしあかりて、

むらさきだちたる雲のほそくたなび

少し)

()

(が 細く)

《いとをかし》

きたる。

(《のは風情がある。》

《

▼月の眺めのよいころ

▼月の出ない闇夜でもやはり

夏はよる。

月のころはさらなり、

闇もなほ、螢

夏は

《が趣がある》

月の眺めのよいころ 《は

。闇夜もやはり、螢

▼一匹二匹などが

の多く飛びちがひたる。また、ただ一つ二つなど、

がたくさん

(《のがよい》。また、たった一匹二匹などが

▼飛んでいくのも

▼趣がある

(夏の夜に)

ほのかにうちひかりて行くもをかし。

雨など降るも

ほのかに(ほんやりと)光って飛んでいくのも

()

(のも

をかし。

趣がある

*いと…とても、たいへん、たいそう

*をかし…趣がある(すばらしい)

*あはれなり…しみじみとした風情がある

*山ぎは…

*山の端…

国A②

秋は夕暮れ。夕日のさして山の端いと近うなりたる

秋は() 山()の端() 夕日()が差して 山()の端()に() 近()くなった()ころに

《が趣がある》

《が》

に、鳥のねどころへ行くとして、三つ四つ、二つ三つ

鳥()から()す()が()ねど()こへ()行く()とい()う()ので、

《が》

《が》

など飛び急ぐさへあはれなり。まいて雁などの

など()と() ()のもしみじみとした趣がある。まして、()が、

▼列になつて飛んでいるのが

つらねたるが、いと小さく見ゆるはいとをかし。日

() ()飛んでいるのが、とても () ()のは、とても趣がある。日()が

▼すっかり沈んでしまつて

入り果てて、風の音、虫の音など、はたいふべきに

() ()沈んでしまつてからの、() ()や() ()などは、また()

《くらしい趣深い》

あらず。

冬はつとめて。雪の降りたるはいふべきにもあらず、

冬()は() ()雪()が() ()は、() ()。

《が趣がある》

霜のいと白きも、またさらでもいと寒きに、火など急

霜()が()と()ても()しろ()いの()も、()また() ()、()と()ても() ()朝()に、() ()

国A③

▼炭を持って廊下を渡っていくのも ▼似つかわしい

ぎおこして、炭もてわたるもいとつきづきし。昼にな

を((おこして、((を持って(廊下を)渡っていくのも、とても) 昼になって、

《寒さが》 ▼だんだんとぬるく和らいでいくと ▼火鉢 ひをけ

りて、ぬるくゆるびもていけば、火桶の火も白き灰がち

寒さが ぬるく緩んでいくと、 火桶(火鉢)の火が((のように

▼みつともない(よくない)
悪し

になりてわろし。

なつて、()。

(第一段)

★「枕草子」についてまとめてみよう。

《三三大随筆》

・筆者…

(書名)

(筆者)

(時代)

・時代…

・分類…

・内容等…

・ ・ ・

国語A課題 枕草子 予習

自力・チラ見・ガン見

教科書を参考に

現代語訳を完成させよう。